

肥料の最新事情 及び GAPについて

令和7年10月22日



HYPONEX®

(株)ハイポネックスジャパン
農芸プロダクツ部

ハイポネックスってどんな会社？



- 株式会社ハイポネックスジャパンは、肥料、農薬、培養土、活力剤の製造販売を手がける企業です。
- 昨今、花き、野菜分野でバイオスティミュラント資材の販売にも乗り出しました。
- 家庭園芸、農芸プロダクツ、プロターフ、化学品、アジア営業の5部門（チーム）の社内組織が、機動的に連携しながら事業展開しております。



萬代 朋希 (まんだい ともき)



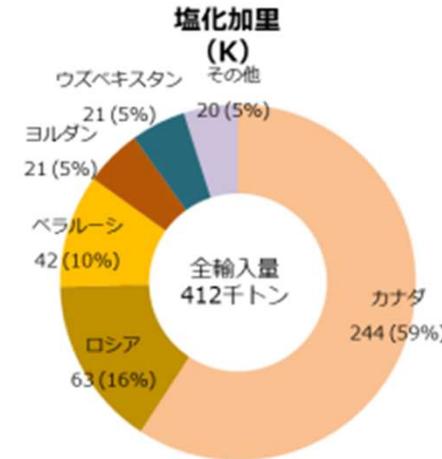
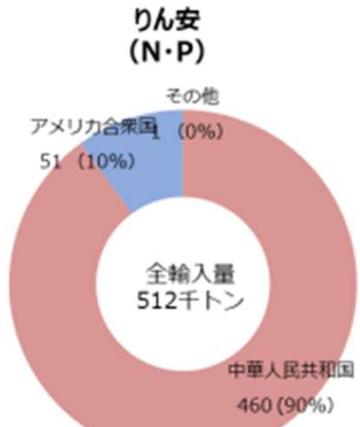
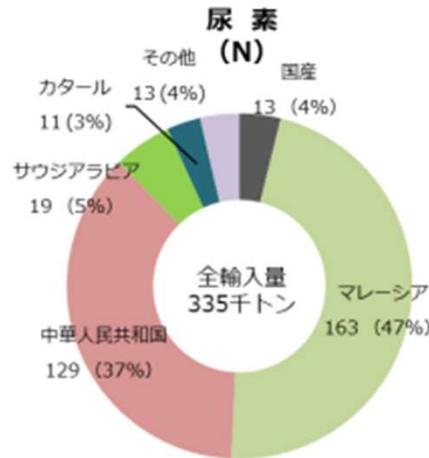
- 平成5年11月生まれ
- 生まれも育ちも大阪
- 趣味は家庭菜園・神社仏閣巡り・旅行・グルメ開拓
- 京都府立大学 農学生命科学科卒業後、農林水産省 北海道農政事務所にて農業振興業務を担当
- その後、大阪府庁(農学職)に転職し、普及指導員として農家への技術指導や地元農産物の生産振興などを担当 (JGAP指導員の経験あり)
- 今年5月にハイポネックスジャパンに入社し、農芸プロダクツ部の一員として技術営業等に従事

肥料の最新事情について

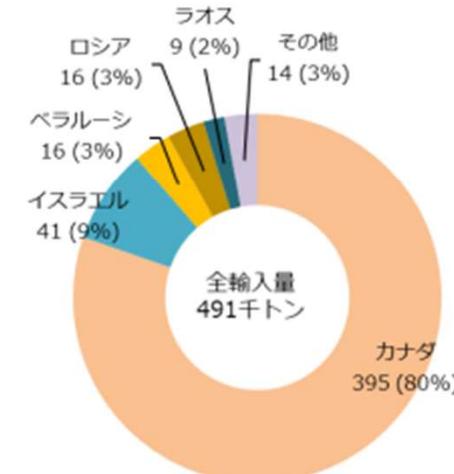
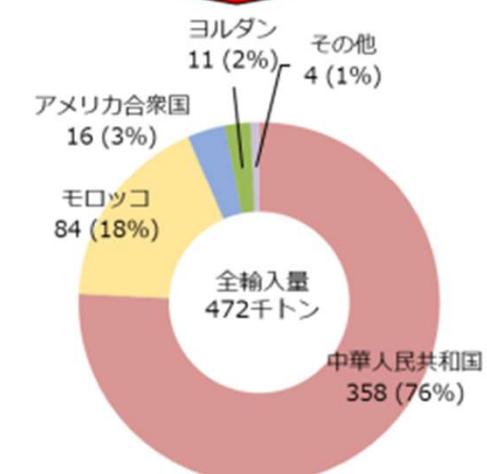
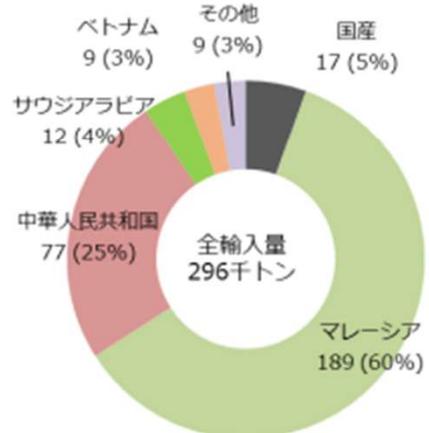
化学肥料原料の輸入相手国、輸入量



R 2 肥料年度（令和2年7月～令和3年6月）



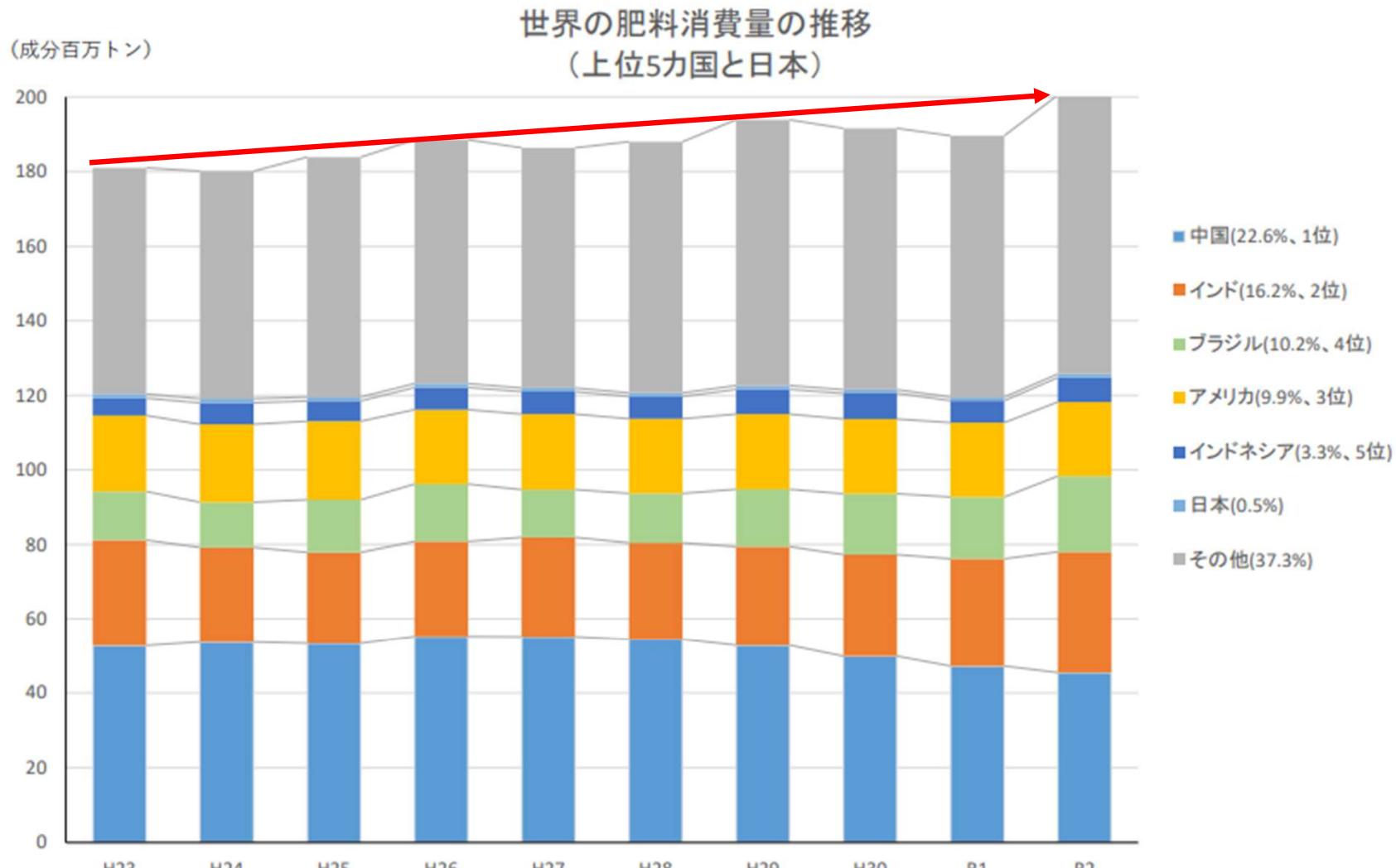
R 3 肥料年度（令和3年7月～令和4年6月）



※ 資料：財務省「貿易統計」等を基に作成

中国による肥料原料の輸出検査の厳格化やロシアによるウクライナ侵略の影響で、別の国からの輸入に切り替え始めている。

世界における肥料の消費量の動向

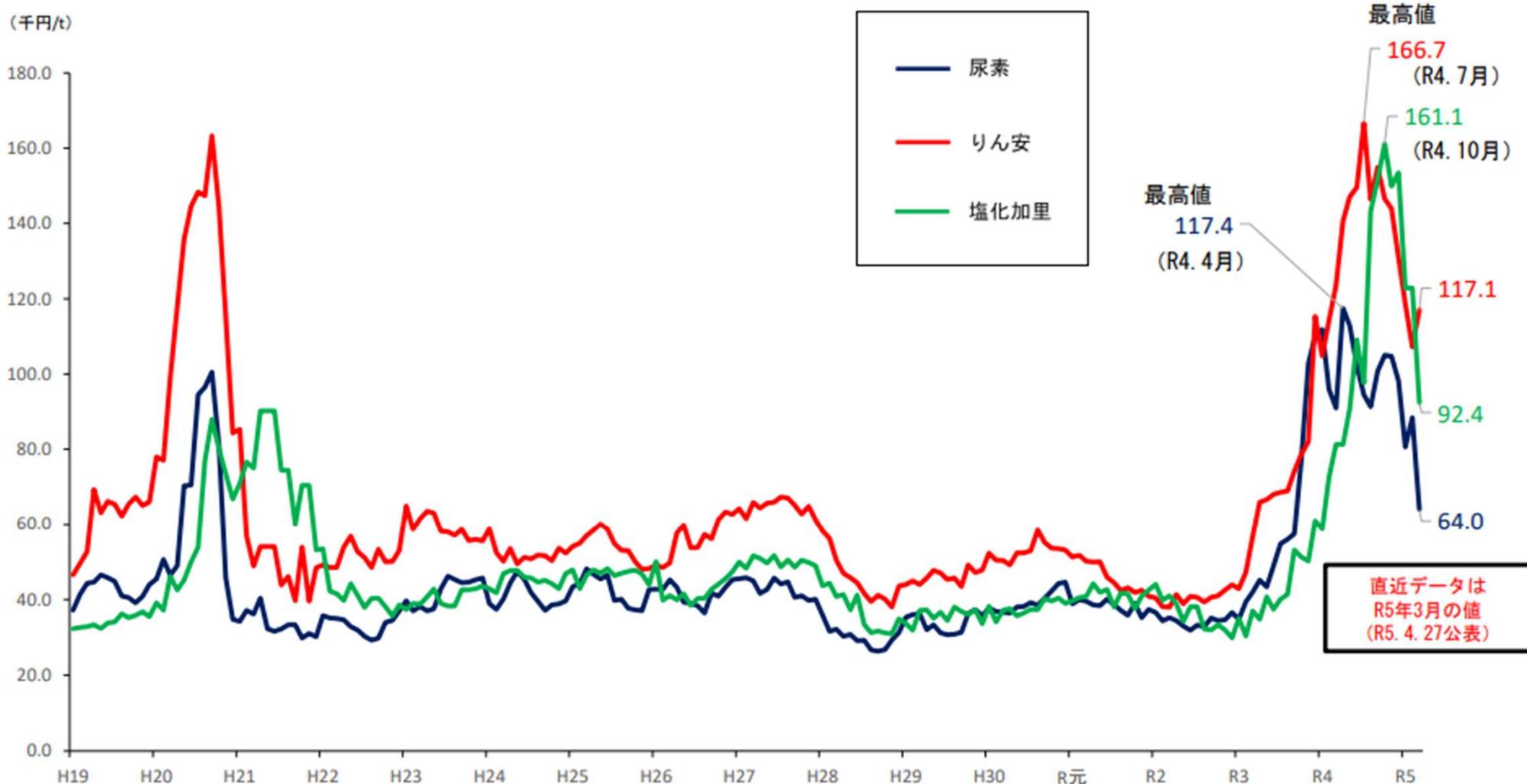


資料：「FAOSTAT」を基に作成

注：数値は、窒素、りん酸、カリの成分の合計

肥料の使用量は年々増加している

肥料原料の輸入価格の動向



※ 農林水産省調べ
財務省貿易統計における各原料の輸入額を輸入量で除して算出。
ただし、月当たりの輸入量が5,000t台以下の月は前月の価格を表記。

輸入価格は、2021年(令和3年)以降、
上昇傾向となつたが、本年1月からは
下落に転じている。

肥料の小売価格



令和5年～6年度における、肥料の物価指数の推移は以下のとおり。
※令和2年度の平均値を100とした場合の指數。

【令和5年】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
肥料	154.7	155.1	155.2	155.3	155.2	148.4	142.3	141.3	141.3	140.8	138.6	135.9

【令和6年】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月						
肥料	135.0	134.4	134.5	134.5	134.3	136.5						



- ★数年前と比べると、肥料の価格は高騰している。
- ★世界的に肥料の使用量が増加しているため、今後安定的に肥料の原材料を輸入できるかどうか分からぬ。
- ★化成肥料の供給が危うくなる可能性も無きにしも非ず。

今後の農業について



世界人口は2050年に、今より20億人以上多い95億人になると言われている



多くの食料が必要になるが、地球の耕作面積には限りがある



限られた耕作面積において、効率良く安定収量を確保する必要がある



減肥や過酷環境下での安定収量確保などの効果が期待される

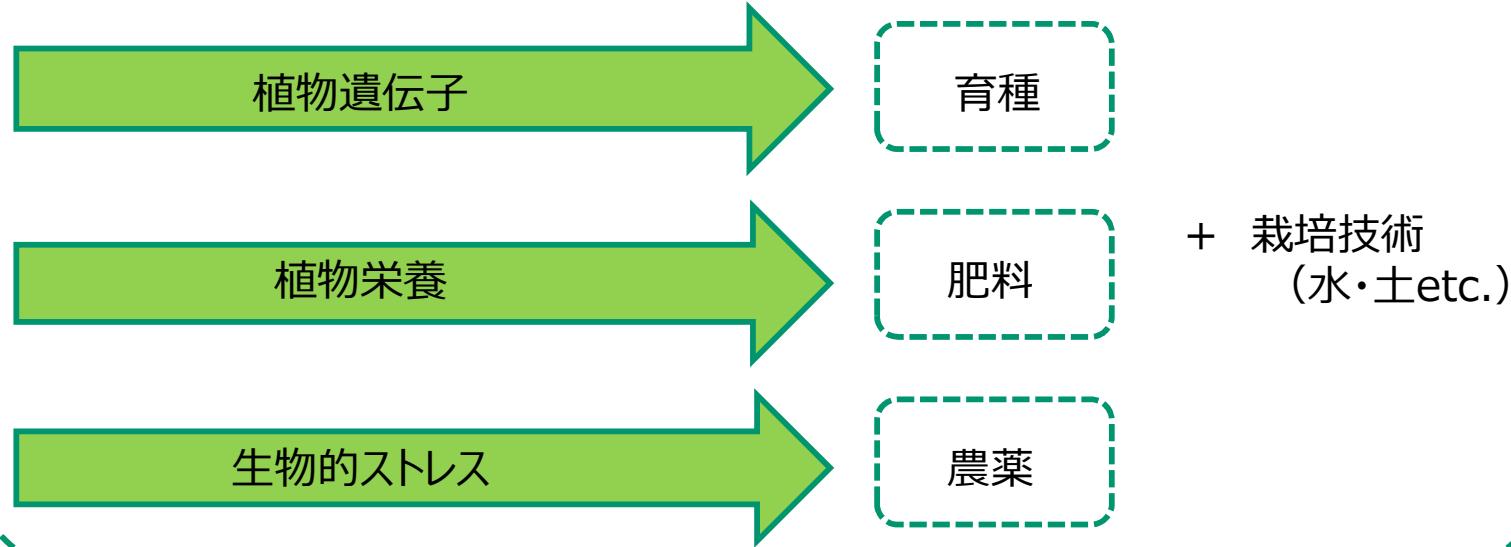
【バイオステイミュラント】

が注目されている！！

バイオスティミュラント(BS)とは?



これまでの農業では…



植物生理
(非生物的ストレス)

暑さ・寒さ・天候不順
への対策として

バイオスティミュラント
(Biostimulant)

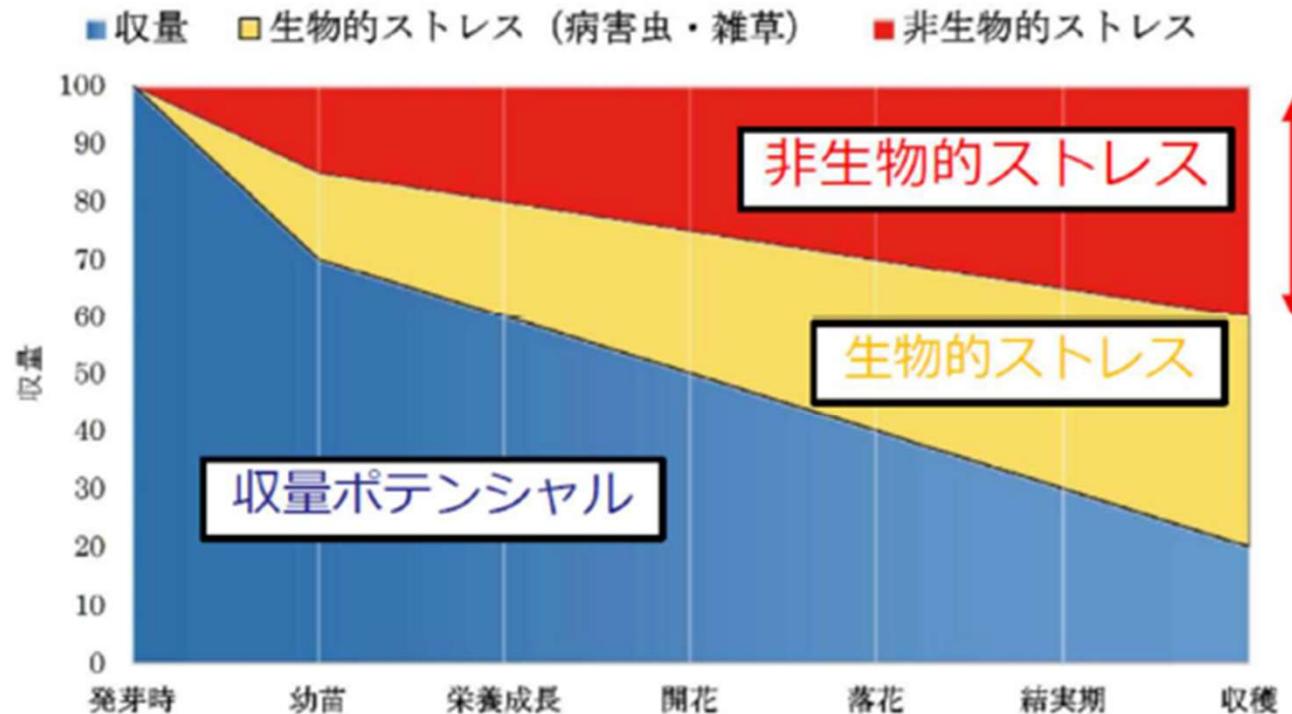
バイオスティミュラント(Biostimulant)資材とは

→バイオ肥料や腐植物質を用いた資材

植物の生育を促進・病害に対する抵抗性の向上を期待される

- ・代謝効率の向上で収量増、品質向上
- ・植物の耐性を強化、非生物的ストレスからの回復
- ・糖度、色、結実の品質向上
- ・水バランスの調整
- ・土壤改善効果…etc

1. **生物的ストレス** (雑草、害虫、病気等)
2. **非生物的ストレス** (高温、曇天、集中豪雨等)



植物を刺激し免疫力を上げることで、「**非生物的ストレス**」による収量減少を軽減し収量、品質を上げる
→ 「**バイオステイミュラント**」の役割

バイオステイミュラントとは



バイオステイミュラントの原料別分類

①腐植質、有機酸資材
(腐植酸、フルボ酸)

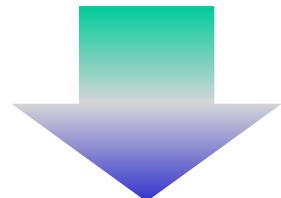
②海藻および海藻抽出物、
多糖類

③アミノ酸およびペプチド
資材

④微量ミネラル、ビタミン

⑤微生物資材
(トリコデルマ菌、菌根菌、
酵母、枯草菌、根粒菌
など)

⑥その他
(動植物由来機能性成分、
微生物代謝物、微生物活
性化資材など)



環境や土壤コンディションに起因する非環境ストレスを緩和・軽減し、植物の能力
や価値を高める資材(技術)

バイオスティミュラント資材一覧



ボンバルディア
(有機活力液肥)
【アミノ酸+フルボ酸】



バタヨン
(高濃度フルボ酸液肥)
【フルボ酸】



ライゾー
(根張り促進型肥料)
【アミノ酸】



グリベテン
(裂果軽減剤)
【アミノ酸+ミネラル】



パナケアMA
Original
(微細藻類液肥)
【アミノ酸】



fosvit K
(亜リン酸液肥)
【亜リン酸+カリウム】



シーウェックス
(海藻類&微細藻類液
肥)
【アミノ酸・ビタミン
類】



新発売

シリテック
(ケイ酸カリ液肥)
【ケイ酸カリ】



R7.2販売

マイコエナジー
(菌根菌活性化液剤)

GAPについて

GAPとは？



- GAPとは「Good(良い)Agricultural(農業)をPractice(実践)する」の略で、「良い農業の取組」という意味になります。農産物の安全性はもちろん、環境に優しい農業や、適切な労務管理など、農業活動全般における取組のことを指す。

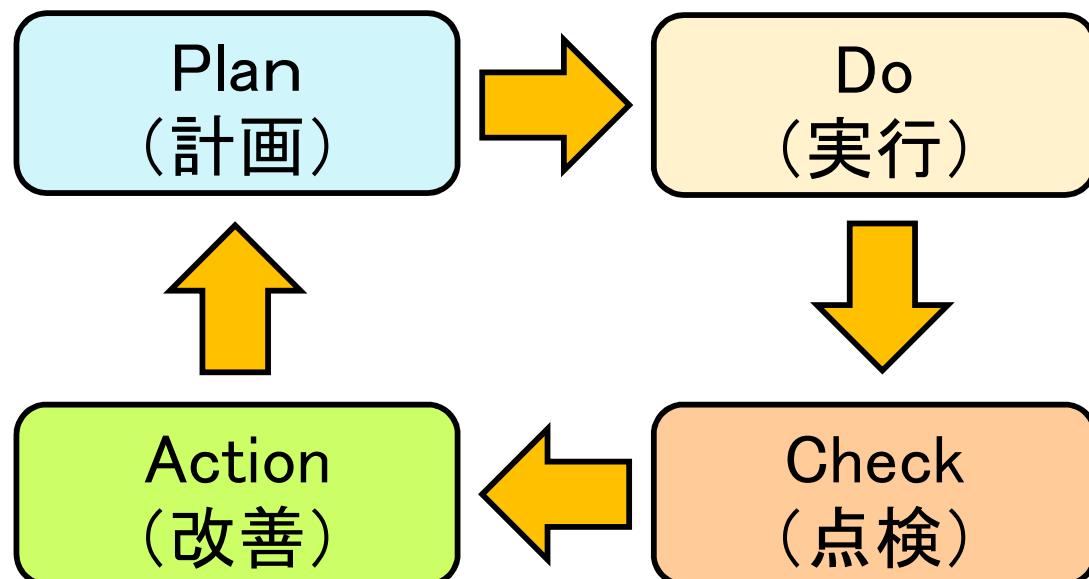


GAPに取り組む？



●「GAPに取り組む」ということは、農作業の点検、記録、確認を行うこと。農業に関わるあらゆる部分を”見える化”させることによって、品質の向上、資材の不要在庫の減少、農作業事故の減少、生産・販売計画の立案がしやすくなる、従業員の責任感・自主性が向上する、といった様々なメリットがあります。

GAPの管理基準に基づき、良い農業を実践できるよう試行錯誤！！



- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 01 計画 | 農作業の計画を立て、作業に伴うチェックリストを作る。 |
| 02 実行 | チェックリストを確認しながら農作業を行い、それを記録する。 |
| 03 点検 | 記録を点検し、改善できる部分がないか確認する。 |
| 04 改善 | 改善点を見直し、次回の農作業に役立てる。 |

GAPに関する国の動き



●農林水産省では、「労働安全」、「食品安全」、「環境保全」、「人権保護」、「農場経営管理」の5分野を含むGAPを、**国際水準GAP**と呼称し、ガイドラインを策定し、普及を推進中。

労働安全



危険作業時のルール決め

食品安全



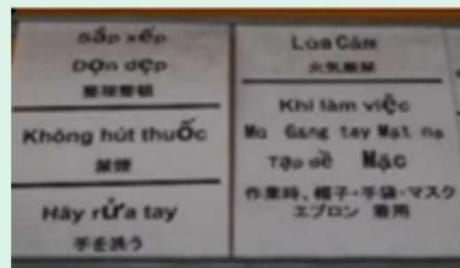
集出荷作業の
服装ルール化

環境保全



空容器の分別処理

人権保護



技能実習生向けに母国語表記

農場経営管理



ほ場情報等をデータで管理

国際水準GAPガイドラインとは？



- 食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野を満たした国際水準GAPに関する共通の取組基準。
- ①青果物、②穀物、③茶、④飼料作物、⑤その他非食用の分類別に作成。
- 都道府県に対して、本ガイドラインに基づく国際水準GAPの指導の実施を求めるとともに、都道府県GAPを存続する場合には、令和6年度末を目途として、本ガイドラインに則して国際水準に引き上げることを求めている。

ガイドラインにおける取組事項（青果物）の概要 【取組数78】

区分	分野	取組事項（[]内は取組事項の数）	区分	分野	取組事項
I 経営体制 全体	農場経営管理	組織体制の決定、農場ルールの策定とルールに基づく運営等【4】	V 経営資源	食品安全	トイレや手洗い設備の確保、土壌や水に関する危害要因分析、農産物取扱施設の衛生管理等【11】
II 生産体制 全体	農場経営管理	生産計画の策定、農場管理に係る記録の作成・保存、知的財産の保護・活用等【3】		環境保全	適正な土壌・排水管理、温室効果ガス排出や廃棄物の削減、周辺住民への配慮等【11】
III リスク管理	食品安全	食品安全に関する危害要因分析と対策の実施等【1】		労働安全	機械等の点検・整備や適正使用等【4】
	環境保全	環境に与える負荷に係るリスク評価と対策の実施等【1】		農場経営管理	農場入場時のルールの設定、計量機器の点検・校正等【4】
	労働安全	労働安全に関するリスク評価と対策の実施等【1】	VI 栽培管理	食品安全	農薬使用計画の策定と適正使用、農薬使用記録の作成・保存、堆肥の適切な製造・施用等【11】
	農場経営管理	商品表示の管理やロットの設定、出荷記録等の作成・保存、クレームや農場ルール違反への対応手順の設定等【5】		環境保全	IPMの実施、農薬や肥料の適正な使用・施用等【11】
IV 人的資源	労働安全	保護具の着用・管理、救急箱等の用意、事故対応手順の設定等【3】		労働安全	農薬の安全な使用・保管等【3】
	人権保護	労働条件の提示、外国人雇用、家族経営における対応等【5】		農場経営管理	肥料等の使用記録の作成・保存等【2】
	農場経営管理	教育訓練の実施、労災保険の成立手続の実施等【2】	VII 専用項目	食品安全	スプラウト類、きのこ類、りんごの栽培に係る事項【11】
				労働安全	ボイラー等の設置・使用に係る届け出、取扱作業主任者の設置【1】
				農場経営管理	ボイラー等の定期自主点検の記録の作成・保存【1】

※取組事項の中には複数の分野にまたがるものがあるが、表中では重複して計上している。

日本での主なGAP認証の種類



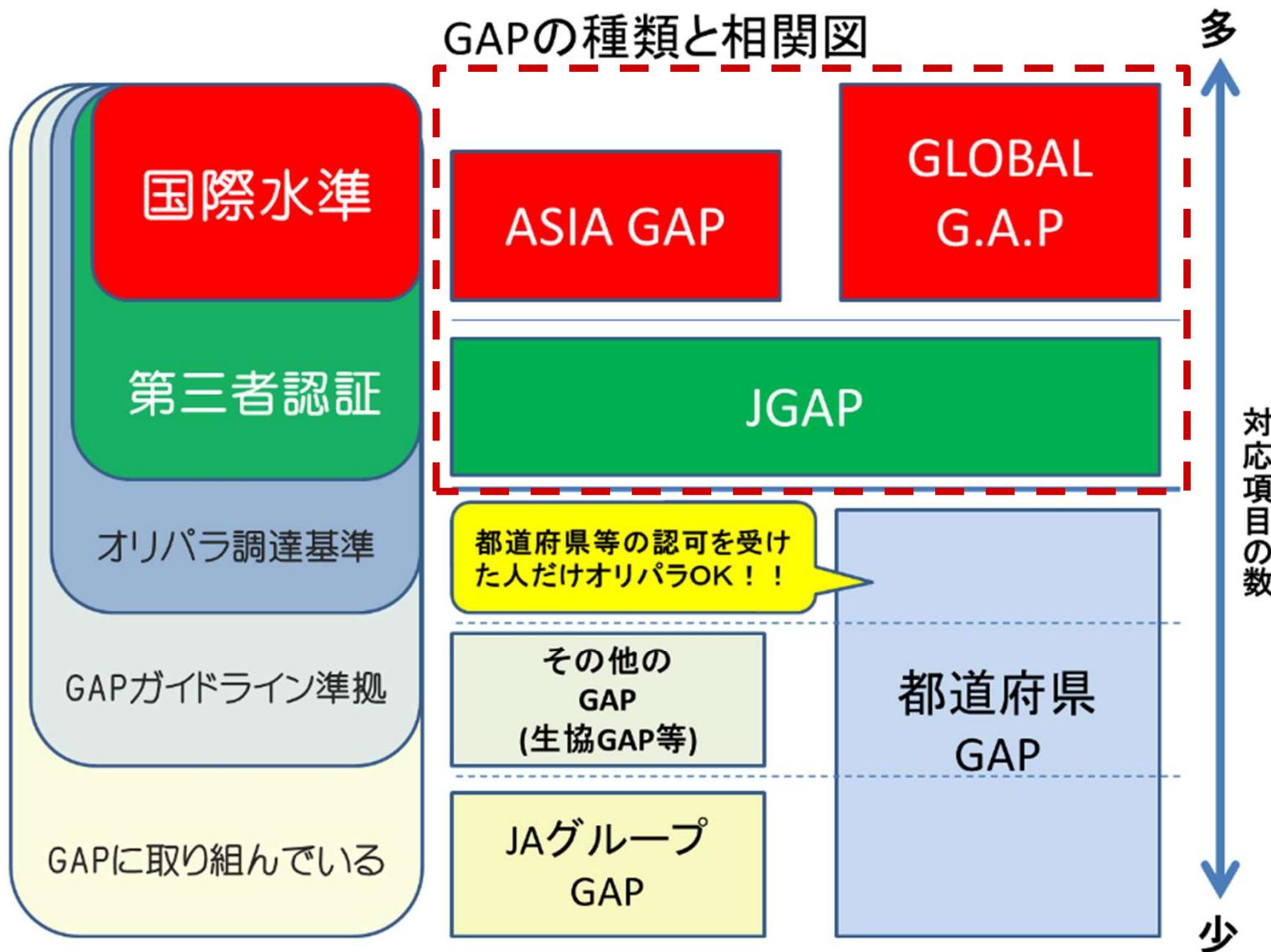
	GLOBAL G.A.P	ASIA GAP	J GAP
	 GLOBAL G.A.P	 ASIA GAP	 J GAP
運営者	Food PLUS GmbH (ドイツ)	一般財団法人 日本GAP協会	一般財団法人 日本GAP協会
管理点	約220項目	約160項目	約120項目
認証方法	第三者認証 (審査員が来て認証)	第三者認証 (審査員が来て認証)	第三者認証 (審査員が来て認証)
認証費用 (目安)	約44万程度 + 旅費	約15万程度 + 旅費	約10万程度 + 旅費

※2028年に、JGAPに統合されます！

※上記の他に、農林水産省が定めた「国際水準GAPガイドライン」に準拠した都道府県GAPや、各都道府県やJAが独自で定めた簡易版GAPも存在。

(簡易版GAPの場合、上記3つのような正式なGAP認証制度の扱いではない。)

日本での主なGAP認証の種類



代表的な3つのGAP以外にも、様々なGAPが存在します。

日本での主なGAP認証の種類



非通知審査って何 ?

審査員が突然訪問し、抜き打ち審査を行うこと。
(飛び込み営業みたいな感じですね…)



- ① JGAPはASIAGAPに比べると取得しやすいため負担が軽減！
- ② JPAGには完全非通知審査が無く、農場がGAPを継続しやすい！

国際水準GAPガイドラインに準拠した都道府県GAP等



▶令和6年6月17日現在で、8都県及び民間2団体のGAPについて、国際水準GAPガイドラインへの準拠を確認注している。

運営主体	GAP名称	準拠している対象品目
岩手県	いわて国際水準GAP	青果物（きのこ類、スプラウト類を除く）、穀物
福島県	ふくしま県GAP	青果物、穀物
東京都	新・東京都GAP	青果物、茶
山梨県	やまなしGAP(農業生産工程管理)手法導入基準 (ADVANCE)	青果物、穀物、茶
島根県	安全で美味しい島根の県産品認証制度（美味しい島根ゴールド） 生産工程管理基準(上位基準)	青果物、穀物、茶
岐阜県	ぎふ清流GAP評価制度 ぎふ清流GAP評価規準2023	青果物、穀物、茶、飼料作物、その他非食用
石川県	いしかわGAP（認証基準2024）	青果物、穀物
埼玉県	S-GAP基準書	野菜（スプラウト類、きのこ類を除く）、果樹、穀物、茶
日本生活協同組合連合会 全国産直研究会	生協産直品質保証システム 生協版適正農業規範 青果・米編	青果物、米
一般社団法人 日本生産者GAP協会	「日本GAP規範」に基づく農場評価制度 評価規準・チェックシート 農業分類：全農場共通、作物共通、水田畑作、園芸 Ver 2.2_230517	青果物、穀物、茶、飼料作物、その他非食用

注：各GAPの内容が国際水準GAPガイドラインに準拠していることを、農林水産省農業環境対策課において確認したもの（準拠確認）。
運営主体が、農業者の取組状況をどのように確認しているか（確認体制）については、準拠確認の対象に含まれない。



GAPの取り組み方



- GAPの取り組み方には、「GAPをする」「GAPの認証を取得する」の2種類がある。
- 認証を取得すると様々なメリットがあるが、認証取得・維持にコストがかかるため、取り組み方は経営者の考え方次第。

GAPをする	農業者がGAPを自ら実施すること。 認証取得の有無は関係ない。
GAP認証を取得する	GAP認証（※）を受けること。これにより、GAPを実施していることが客観的に証明される。

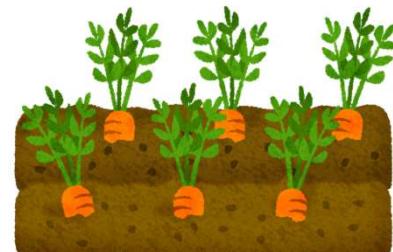
（※）認証機関の審査により、GAPの実施が確認された証明を指す。

日本では、GLOBALG.A.P.・ASIAGAP・JGAPの3種類の認証が普及している。

農業者がGAPをしている



農業者がGAP認証を取得！



取引先から
の要請 等



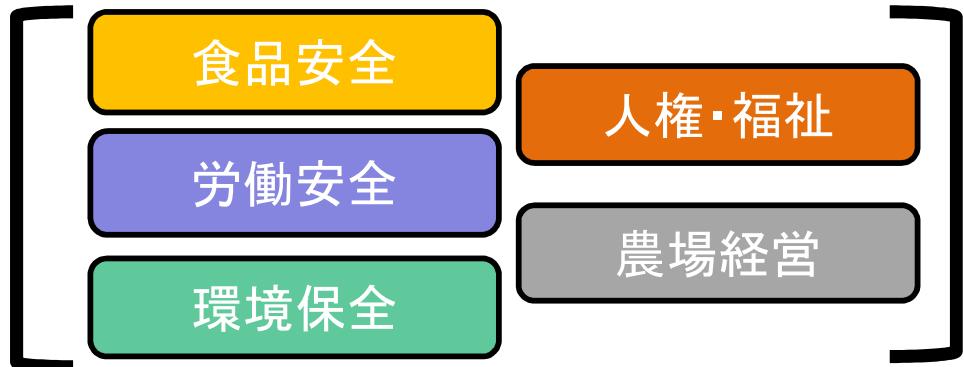
JGAP

- 整理整頓されていれば必要な物がすぐ用意できるし、安全に管理することができる。
- 作業手順がルール化されていれば、誰もが同じ手順で無駄なく作業ができる。
- 事故が起きた時でも、事前に対処法が準備されていればパニックにならず迅速に対応可能。



このような日常的な取組が…

GAP



GAP認証の基準を参考に、
自分たちの農場に最も適したルールを作成！

日常に隠れているリスクに気づき、適切に評価・対応することが重要！！

食品安全



農産物への汚染を防ぐ！

コンテナに古くなった野菜のクズや汚れが残っていると、運搬時に農産物が汚染される可能性が。例えば収穫時にはゴム手袋を着用し、農産物を運ぶコンテナは収穫専用の清潔なものを使い、前もって荷台などを洗浄します。



異物混入の危険を回避！

異物混入を防ぐために、収穫した農産物を貯蔵庫などに保存する際は、清潔なカバーを被せます。また、梱包作業をする作業場は農薬や肥料を保管している部屋とは別にし、照明は万が一割れた時でも安全な飛散防止加工タイプに変更します。

環境保全



周辺環境への負荷軽減！

病気や害虫によって農産物が被害を受けないように予防や対策を行う時は、記録を残すことで対応策を再検討したり、農薬散布以外の手段も組み合わせることによって、農薬を散布する回数を減らし、周囲の環境への負荷を少なくします。



点検と意識向上でCO₂削減を！

トラクターや農薬保管庫などの農業機械や設備、器具を常に点検・整備し、農薬やオイル漏れがないかなど、安全性をチェック。掲示物等で、不必要・非効率なエネルギー消費の節減を呼びかけ、地球環境に優しい農業を目指します。

労働安全



危険を警告！

初めて農場を訪れる人や近隣住民にも分かるように、危険な場所や箇所には注意喚起の掲示物を設置。農作業の安全マニュアル等を作成し、農業事故を防ぐとともに、万が一事故が起きた時でも対処できるように心がけます。



安全な作業環境を確保！

危険な作業をきちんと把握し、安全に作業を行うための服装や保護具を用意します。機械等の適正な使用、燃料の保管方法や応急処置についての講習会の受講など、安全確保のための知識を学び、実施します。

①生産物の評価の上昇

GAP認証により、生産過程の安全性や食品の品質の高さが世間に認められる。その結果、販路拡大や品質安定によるクレームの減少が見込める。

②農場管理の内容や効率の改善

農場全体の管理や経営管理の改善、作業効率の向上、コスト削減などが見込める。

③世界各国の小売業者に販売できる（Global G.A.P.の場合）

GLOBALG.A.P.データベース上での検索（認証産地検索）が可能となり、海外企業との取引など幅広いビジネスチャンスをつかむ契機となる。

※JGAP、ASIAGAPも「認証農場検索」が可能。



GAP取得は、付加価値の向上やビジネスを広げるツールになる！！

GAP取得の効果（一例）

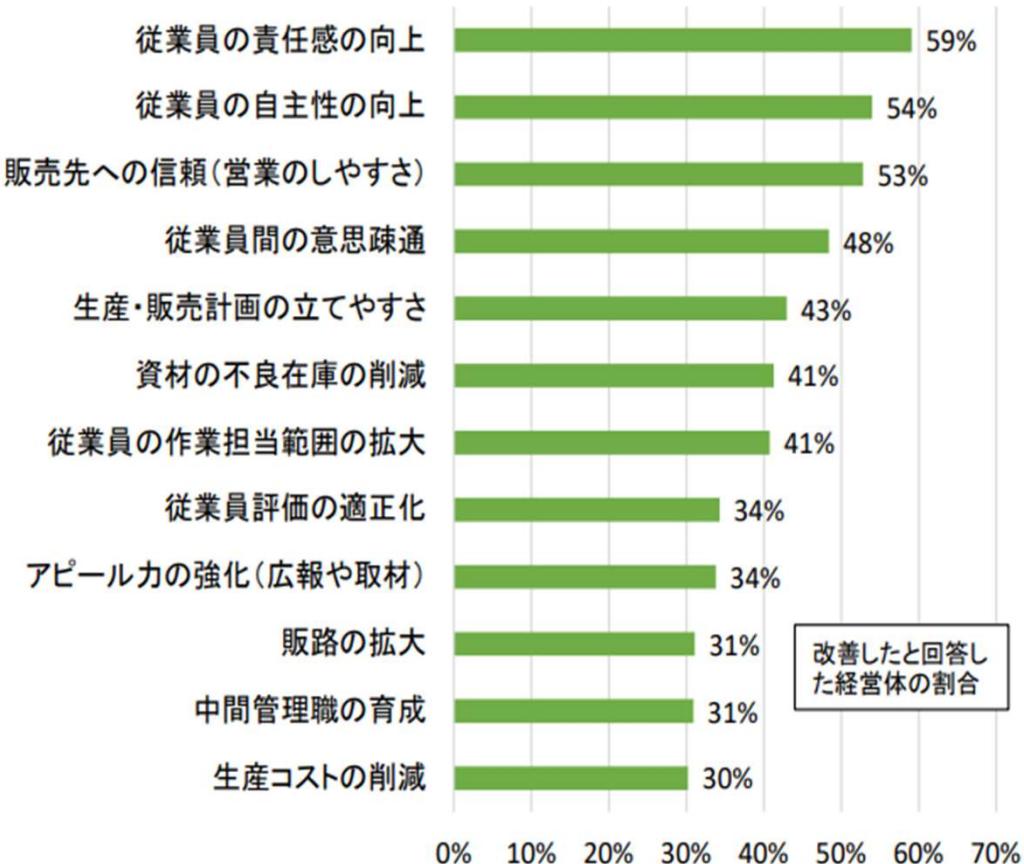


認証取得に取り組んだ効果の例 (認証取得経営体への訪問調査結果)

- 肥料・農薬の管理において有効であり、生産物への交差汚染リスクが軽減したと感じる。【個人経営体・野菜】
- 以前は感覚で施肥していたが、データを蓄積・分析して適正施肥に努めるようになった。【個人経営体・野菜】
- 労働安全の意識が高まり、従業員が自主的に機械の整備・点検に取り組むようになった。【法人経営体・果樹】
- GAPに基づく作業者への教育・訓練は、外国人技能実習生の育成にも大変有効【法人経営体・野菜】
- 家族内の役割分担が明確化され、各人の責任感も向上した。【個人経営体・野菜】
- GAPの取組に伴う片付けや記録の手間は増えたが、整頓された環境で計画に基づき効率的に作業を実施できるようになり、全体の作業時間の減少につながった。【法人経営体・穀物】
- 認証取得により実需者から前向きな評価が得られるようになった。お中元・お歳暮商品にも取り上げてもらえるようになった。【法人経営体・野菜】

※ GAP認証取得経営体への訪問調査の結果から一部を抜粋
出所:令和元年度GAP導入影響分析のための調査委託事業(農林水産省)

認証取得前後で改善した内容 (認証取得経営体へのアンケート結果)

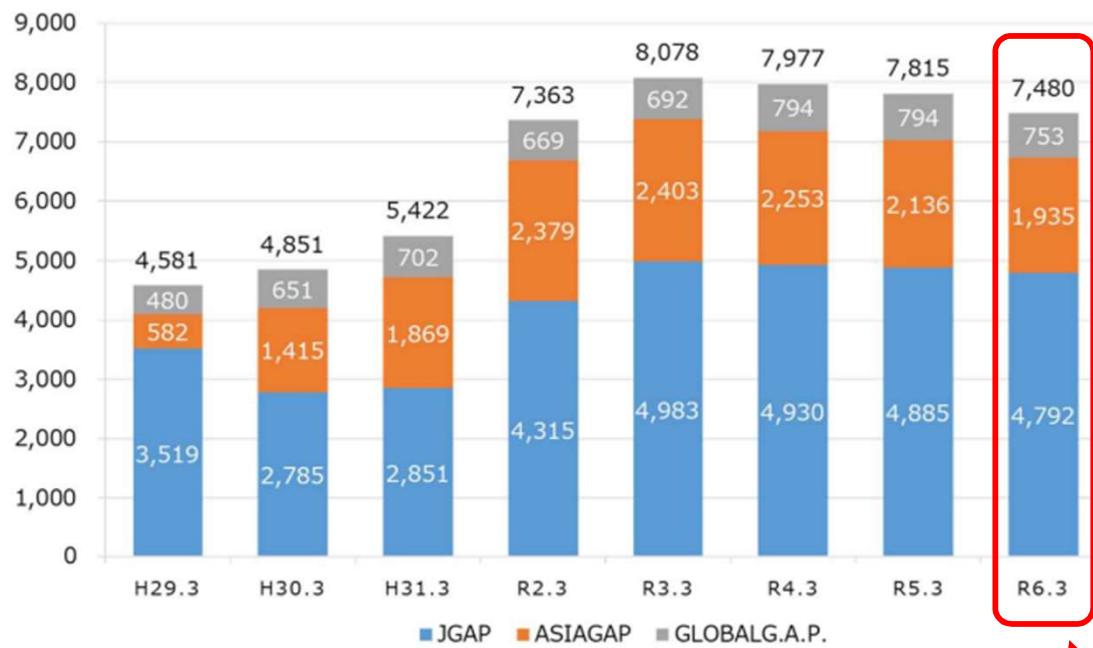


※ GAP認証取得経営体(母数589)へのアンケートの結果、3割以上の経営体が「かなり改善した」「改善した」「やや改善した」と回答した項目を掲載

出所:令和元年度GAP導入影響分析のための調査委託事業(農林水産省)

GAP認証の普及状況

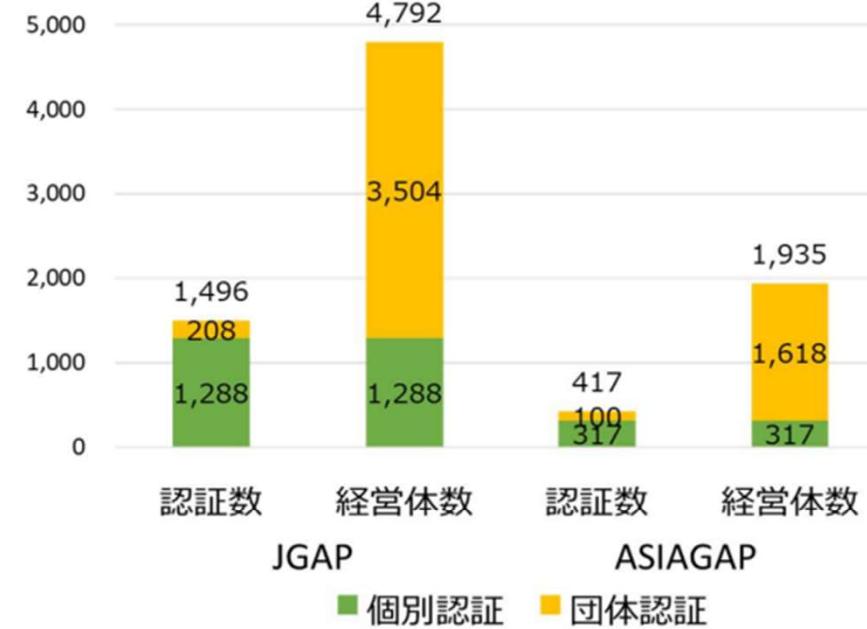
GAP認証取得状況（経営体数）



農林水産省農業環境対策課調べ

※ 青果物、穀物、茶、畜産に係る認証経営体数（国内のみ）
※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上。
※ GLOBALG.A.P.の経営体数について、H30.3はH29.12時点、R3.3はR2.12時点、
R4.3はR3.12時点、R5.3はR4.12時点、R6.3はR5.12時点。

JGAP・ASIAGAPにおける個別認証・団体認証の内訳

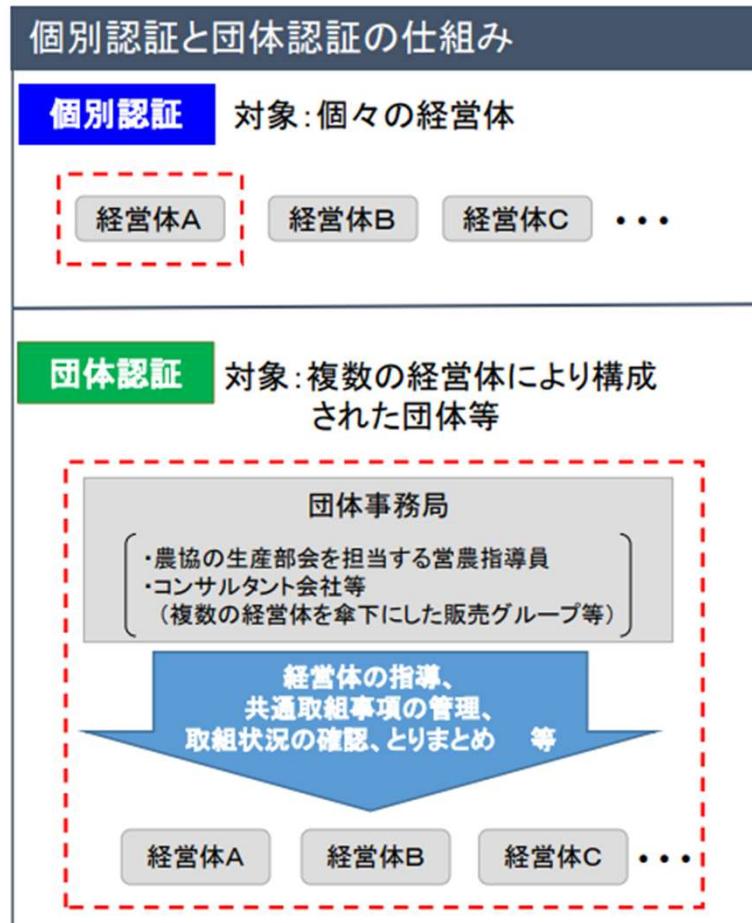


農林水産省農業環境対策課調べ

※ 令和6年3月時点
※ 青果物、穀物、茶に係る認証数及び認証経営体数（国内のみ）
※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上

国内における農畜産業のGAP認証取得経営体数は、JGAP・ASIAGAP・GLOBALG.A.P.で合計7,480経営体（令和6年3月末時点）

- GAPの取り組み方には、「GAPをする」「GAPの認証を取得する」の2種類がある。
- 認証を取得すると様々なメリットがあるが、認証取得・維持にコストがかかるため、取り組み方は経営者の考え方次第。



審査費用

＜個別認証の審査費用＞

JGAP	ASIAGAP	GLOBALG.A.P
約10万円	約15万円	約44万円

(農業環境対策課調べ)

＜50経営体でJGAPを取得する場合の試算＞

個別認証 審査件数: 50件
審査費用: 50件 × 10万円 = **500万円** (※3)

団体認証 審査件数: $\sqrt{50}$ 経営体 + 団体事務局等2件 = 10件
審査費用: 10件 × 10万円 = **100万円** (※3, ※4)

※3: 別途審査員旅費がかかる。
※4: その他、内部検査員・監査員の養成費、検査の外注費用がかかる場合がある。

団体認証の方が低コスト！

農業高校・農業大学校等におけるGAP認証取得状況



- 97校の農業高校が、第三者機関によるGAP認証を取得している。
(GLOBALG.A.P.:15校、ASIAGAP:21校、JGAP:74校)
- 28校の農業大学校等が、第三者機関によるGAP認証を取得している。
(GLOBALG.A.P.:10校、ASIAGAP:8校、JGAP:12校)

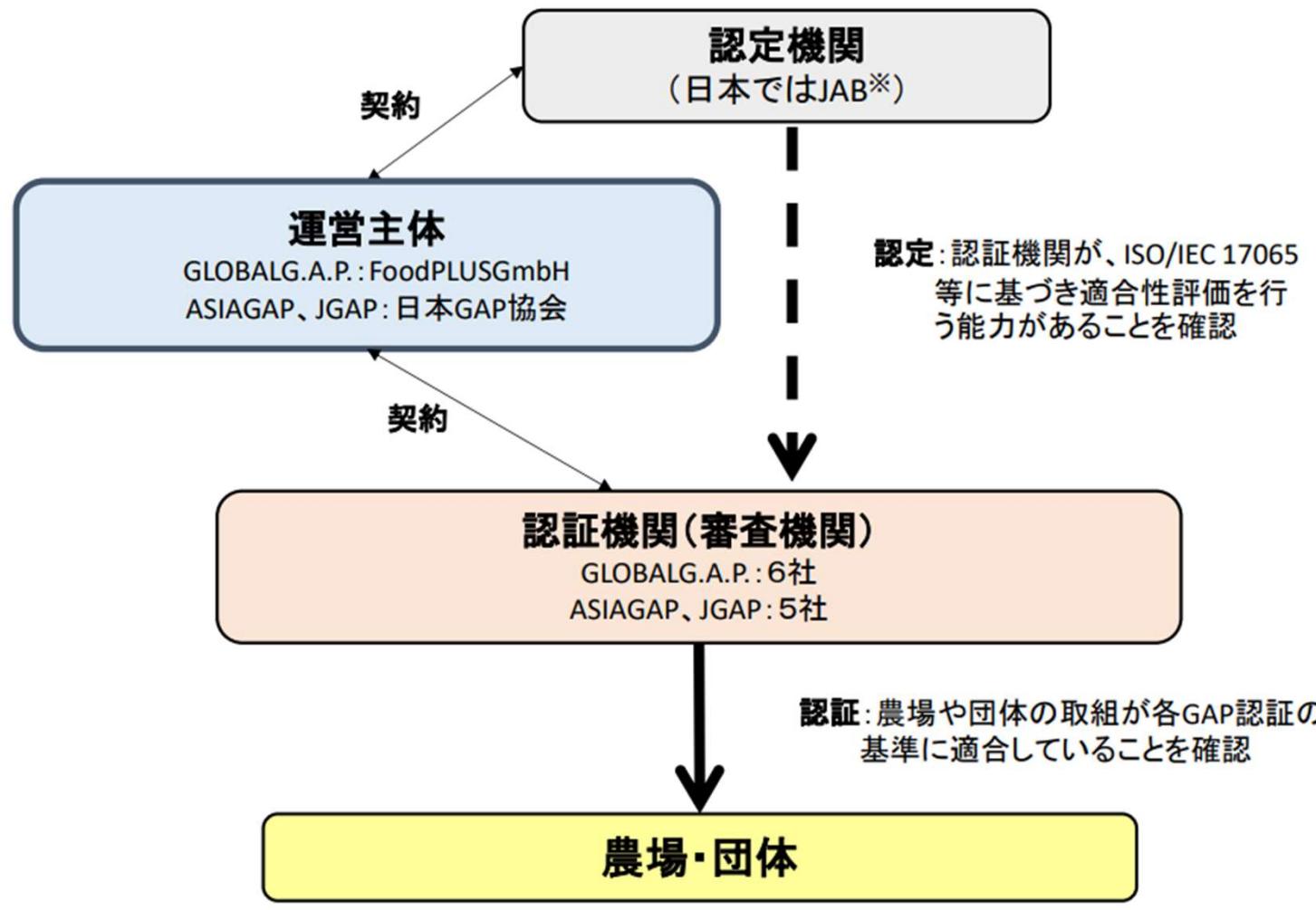
	農業高校における認証取得状況		
	GLOBALG.A.P.	ASIAGAP	JGAP
北海道	2	5	10
青森県	2	0	2
岩手県	0	0	3
宮城県	0	2	0
秋田県	0	0	1
山形県	0	0	4
福島県	2	1	7
栃木県	0	0	2
群馬県	0	1	1
千葉県	0	0	1
東京都	0	0	7
神奈川県	0	0	4
山梨県	0	1	1
長野県	1	0	0
静岡県	0	0	3
新潟県	2	0	0
福井県	0	1	0
富山県	0	0	1
岐阜県	0	0	4
愛知県	1	0	1
三重県	1	4	3
滋賀県	0	1	1
京都府	1	0	0
鳥取県	0	0	1
広島県	0	1	0
山口県	0	0	1

	農業高校における認証取得状況		
	GLOBALG.A.P.	ASIAGAP	JGAP
徳島県	0	0	1
香川県	0	0	1
愛媛県	2	0	0
高知県	0	0	2
佐賀県	0	0	3
長崎県	0	0	1
熊本県	0	0	1
大分県	1	2	6
宮崎県	0	1	0
鹿児島県	0	1	1

	農業大学校等における認証取得状況		
	GLOBALG.A.P.	ASIAGAP	JGAP
北海道	0	1	0
岩手県	0	1	1
宮城県	0	0	1
山形県	0	1	0
福島県	0	0	1
茨城県	0	1	0
栃木県	1	0	0
群馬県	0	1	0
千葉県	1	0	0
神奈川県	0	0	1
長野県	1	0	0
静岡県	1	0	0
新潟県	1	0	0
岐阜県	0	1	0
三重県	0	0	1
滋賀県	0	1	0
奈良県	0	0	1
和歌山県	1	0	0
鳥取県	1	0	0
広島県	0	0	1
山口県	0	0	1
愛媛県	1	0	0
高知県	1	0	0
福岡県	1	0	0
佐賀県	0	0	1
大分県	0	0	1
宮崎県	0	1	1
鹿児島県	0	0	1

(令和6年3月末時点:農林水産省農産局農業環境対策課調べ)

GAP認証の認証体制

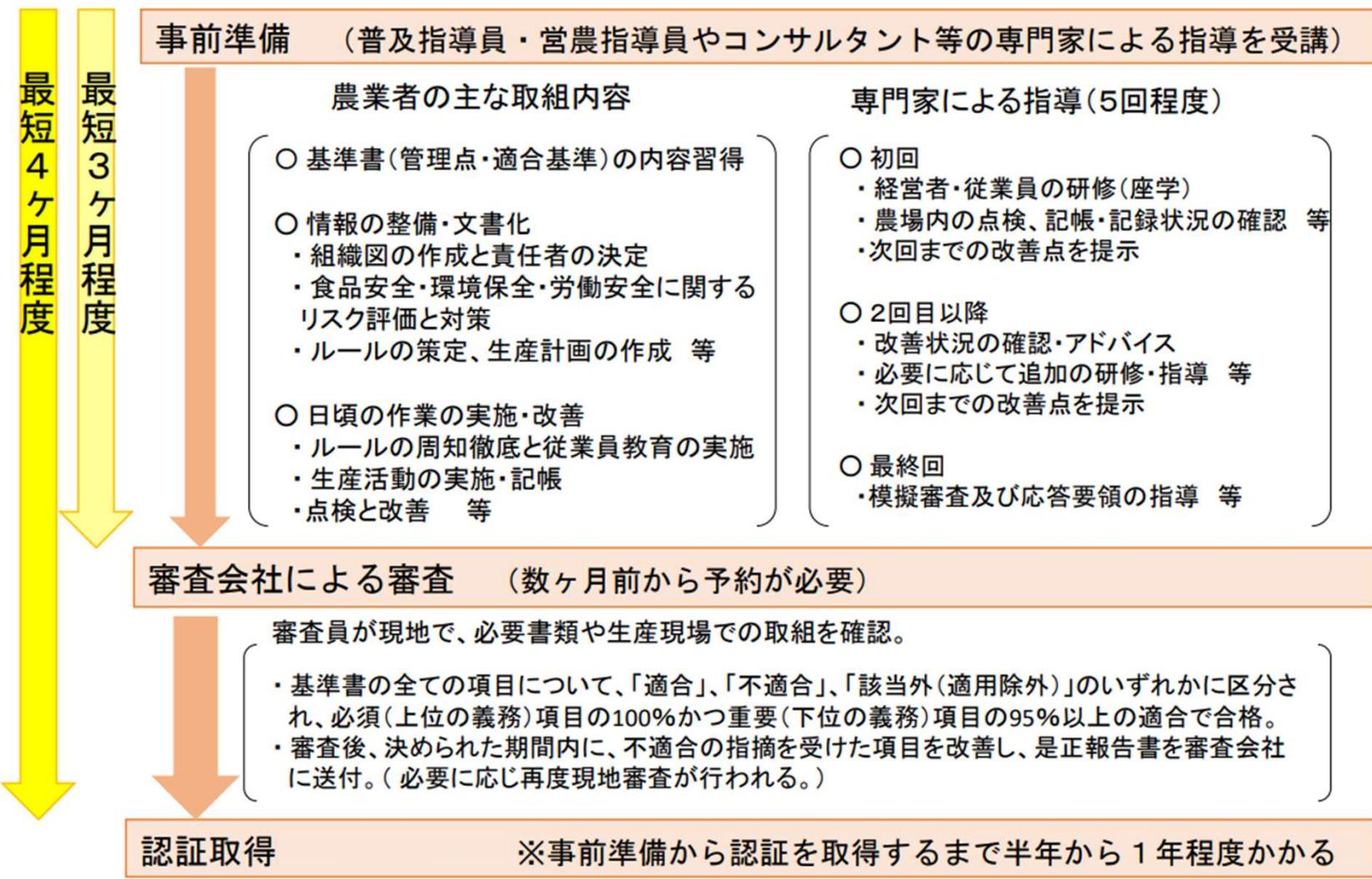


※ JAB: 公益財団法人 日本適合性認定協会
(図中の「認定」業務を工業分野やサービス業分野など幅広い分野で実施する公益法人(内閣府所管))

認証取得までの流れ（一例）



準備から取得まで、
最短でも約半年程度
かかる！！



認証取得を検討して
いる場合は、早めに
動く方が良い！！

認証取得の審査：管理点（JGAPの場合）



JGAP
ジェイギャップ
Japan Good Agricultural Practices
(日本の 良い 農業の 取り組み)

農場用 管理点と適合基準

青果物
2022



2022年11月14日 発行
2023年 2月14日 運用開始
2022年11月28日 改訂

番号	レベル	管理点	適合基準	適合性	コメント
9.3	重要	危険な作業に従事する要件	危険を伴う作業を安全に行うために、以下を満たした作業者が担当している。 (1) 安全のための充分な教育・訓練を受けた者(管理点4.1) (2) 法令で要求されている場合には、労働安全に関する公的な資格または講習等を修了している者(管理点4.2) (3) 酒気帯び者、作業に支障のある薬剤の服用者、病人、妊婦、年少者以外の者 (4) 作業内容に応じた心身機能や能力を有した者 (5) 安全を確保するための適切な服装・保護具を着用した者		
9.4	重要	事故発生時の対応	事故・火災に素早く対応し影響を最小限にとどめるために、以下に取り組んでいる。 (1) 事故・火災の対応手順および連絡網の文書化と作業者への周知 (2) 清潔な水および救急箱の用意 (救急箱の中身は管理点9.2でリスク評価した結果、必要と判断したもの)		
9.5	重要	設備・機械・器具の安全な使用	事故防止のために、設備・機械・器具について以下に取り組んでいる。 (1) 取扱説明書やメーカーの指導に従った使用 (2) 安全性を損なう改造の禁止 (3) 設備・機械の購入時には安全性の評価を行い、より安全に配慮した機種の選択 (4) シートベルトや安全フレームなど安全装置がある機械は安全装置を有効にした使用(着装等) (5) 作業機械を装着・牽引したトラクターの灯火器類設置等、法令に従った公道走行 (6) 使用前点検		
9.6	必須	労働災害に対する備え(強制加入)	労働災害に対する備えのために、法令において労働災害の補償に関する保険が存在し、農場が強制加入の条件に相当する場合には、その保険に加入している。		
9.7	努力	労働災害に対する備え(任意加入等)	労働災害に対する備えのために、以下に取り組んでいる。 (1) 労働者が労働災害にあった場合の補償対策 (2) 経営者や家族従事者が労働災害にあった場合の補償対策		



必須：必ずクリアしなければならない管理点

重要：全体の重要項目のうち、85%以上クリアしなければならない管理点

努力：クリアしなくても問題ない管理点

(31)

令和2年3月現在（更新）

 **GAPの取組**
(個別認証)

こめだ農園

<http://www.komedanouen-daikon.com/> <http://www.komedanouen-ninjin.com/>

GLOBALG.A.P.
にんじん

<基本情報>

所在地：熊本県西原村
労働力：夫婦、両親、正社員3名、外国人技能実習生1名、パート6名

<農場概要>
栽培面積：25ha（にんじん18ha、だいこん7ha）

<経営理念>
「消費者ニーズに応じた野菜づくり、儲かる農業の実現」



<GAPの取得のきっかけ>

取引先との契約条件 ➡ 2016年 GLOBALG.A.P.取得
(にんじん 18ha)

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

◆取引先との契約を優先的に継続
◆リスク管理の徹底

- 従業員が作業場やほ場で衛生面に気を配るようになり、より安全で安心な農産物の提供につながる

◆整理整頓や生産履歴の記帳でコスト削減

- 整理整頓により、作業場が整理され、作業効率がアップ
- 農薬や肥料の在庫管理で無駄な支出減少
- 生産履歴等の管理により、従業員への情報共有を効率化

<GAP認証取得で苦労したこと>

◆生産履歴等の管理

- ほ場管理等の記帳、ほ場地図の作成

◆労務管理

- 外国人技能実習生が理解できる契約書や作業マニュアルの作成
- 従業員との意見交換、議事録の作成

◆リスクの把握（食品安全、農作業安全等）

- ほ場等の危険箇所の把握及びリスク対応策の考案

【農業者の声】

GAP導入1年目は、農薬や農機具の整理整頓等、労働環境の整備に苦労した。






(36)

令和3年2月現在

<p>☞ GAPの取組 (個別認証) (有) 村川商店／(有) 熊本有機農産</p>		<p>ASIAGAP 人参・たまねぎ・ばれいしょ・南瓜・ほ うれん草・キャベツ・白菜・だいこん</p>
<p><基本情報></p> <p>所在地：熊本県熊本市東区戸島町2479 構成員：14名（役員2名+従業員2名+実習生10名） 栽培面積：4.5ha（にんじん2ha、たまねぎ0.8ha、ばれいしょ0.3ha、 南瓜0.2ha、ほうれん草0.2ha、（キャベツ、白菜、 だいこん）1ha）</p> <p>【経営理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心、安全な新鮮野菜の提供・生産農家の育成・適正利潤の確保。 ○お客様との信頼と会社内的人的信頼関係を基礎に、安全な野菜の普及を 目的として、この熊本の地より全国に新鮮でおいしい野菜の提供を具体的、 実現的に実施していくことを、基本理念とする。 		
<p><GAP認証取得のきっかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京2020オリンピック・パラリンピックへの食材提供 を狙う。 <p>ASIAGAP認証取得 ⇒ 平成30年2月</p>	 	<p><GAP認証取得による効果や改善されたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ○GAP認証取得により、取引先からの信用度が格段に アップ。 ○生産から出荷までのトレーサビリ ティが明確になり、国内スーパー に安全・安心なものを出荷できる ようになった。 <p>「今後の意向」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○輸出量を拡大し、国内販売量を縮小。 ○JAS認証（無農薬・無化学肥料・安心・安全・美味しいやさいの栽培を目標）を取得予定。
<p><GAP認証取得で苦労したこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ○リスク評価に対応した施設整備や整理整頓の 徹底 ○作業工程・衛生マニュアルの作成 ○書類作成に苦慮し、結果、事務専門職員を配置。 ○審査時の質問には、即答が求められ冷や汗。 ○全ての作業について記録を行うことなど、従業 員によるデータ管理の習慣付け。 		<p>問合せ先: TEL 096-380-8663 https://www.murakawashoten.com</p>

(33)

令和2年3月現在（更新）

 GAPの取組
(個別認証)

立石農産
<http://www.gunchiku.co.jp/publics/index/21/> (立石グループ)

JGAP
ミニトマト




<基本情報>

- 所在地：熊本県八代市
- 労働力：夫婦、外国人技能実習生8名、パート6名

<農場の概要>

- ◆ 栽培面積：1.85 ha (ミニトマト)

<経営の理念（企業宣誓）>

- ①人と自然に優しい農業を行う ②社会のために向上心を持って事業に努める
- ③目標でなく、目的をもって作業を行う

<GAPの取得のきっかけ>

■農場・経営管理のツール 2010年 JGAP (Basic) 取得
 ■グローバル化に向けた対応 【ミニトマト：全面積】

<GAP認証の取得・更新で苦労したこと>

- ◆ JGAP農場用管理点と適合基準に沿ったルール作りに困惑
- ◆ 更新審査では、特に労働安全、人権保護（実習生等）の作業条件遵守等の原因追及・改善が厳しく求められ苦慮



<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

- ◆ 経営の見える化（PDCAサイクルの徹底）
 - ・農場、経営を点検することにより**不要（無駄）なものが判明**（経営改善、コスト削減）
- ◆ 整理整頓、農作業・点検ルールの徹底
 - ・整理整頓による**作業効率UP**
 - ・従業員の**意識向上、労働安全に有効**
- ◆ 取引の有利性（信用・信頼の確保）
 - ・市場、消費者等に対する**食品安全のアピール**
 - ・**契約出荷、市場での有利販売、取引の拡大**

<今後の経営展開について>

- ◆ GAPに取り組む**新しい仲間作り**（農業経営者となる人材育成）
- ◆ 将来的には**アジア圏をターゲットに輸出を検討**
- ◆ 現在のJGAPからASIAGAP認証取得を検討（まずは販路の確保を優先、先方の要望に応じて取り組む予定）

農林水産省九州農政局HPより引用

～GAPのまとめ～

GAPとは、良い農業を行うための1つの基準のようなもの！
取得することで取引先が増えたり、作業の効率化や経営改善
が期待できる！

取得するには時間がかかるため、早めの準備が必要不可欠。
審査に必要な管理点を満たし、適切な農業ができる環境づくり
をしよう！！（書類作成や従業員への情報共有も忘れずに…）

GAPには様々な種類があるが、国際的な情勢を踏まえると、

GLOBAL G.A.P.（世界基準のGAP）

を取得すると、農業の更なる発展が期待できる！！

ご清聴ありがとうございました！

